

第1回 稲敷市事務事業評価 外部評価委員会

日時：令和2年9月18日（金）午後1時30分～
場所：稲敷市役所本庁舎 3階 321会議室

発言者	発言内容
-----	------

1. 開会

事務局	<p>本日はお忙しい中、お集まりいただき誠にありがとうございます。只今より、稲敷市事務事業評価外部委員会第1回会議を始めさせていただきます。</p> <p>本日は、最初の委員会でございますので、まだ、委員長、副委員長が選任されておりません。選任されるまでの間、私、川崎が進行役を務めさせていただきます。</p> <p>なお、当委員会は公開といたしておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>本日の日程であります。会議次第に沿って進めさせていただきます。委嘱式については、場所を移動して、市長室にて委嘱状の交付を行わせていただきます。その後、この会議室に戻って、委員会会議を進めさせていただきますと思いますので、よろしくお願いいたします。</p>
-----	---

2. 委員の紹介

事務局	<p>それでは、会議次第に沿って、「2. 委員の紹介」を行わせていただきます。お配りした資料2「令和2年度第1回稲敷市外部評価委員会会議資料」P11をご覧ください。</p> <p>事務局でお名前をお呼びしますので、委員の皆さん、一言ご挨拶をいただければと思います。</p> <p>砂金祐年様。</p>
砂金委員	<p>常磐大学総合政策学部総合政策学科から参りました。砂金と申します。よろしくお願い致します。</p>
事務局	<p>小嶋裕司様。</p>
小嶋委員	<p>茨城租税債権管理機構で事務局長をやっております。小嶋と申します。よろしくお願い致します。</p>
事務局	<p>佐々木一如様。</p>
佐々木委員	<p>常磐大学総合政策学部総合政策学科で行政学を研究しております。佐々木と申します。よろしくお願い致します。</p>
事務局	<p>引き続き、事務局側のご紹介をさせていただきます。</p>
事務局	<p>行政経営部企画財政課、川崎です。同じく大湖、高城でございます。ま</p>

	た、コンサルタントとして本日ご同席いただいております、都市環境計画研究所、大竹さん、澤田さんです。
--	---

3. 委嘱状の交付（市長室）

事務局	次に「3. 委嘱状の交付」ですが、場所を移動して市長応接室にて行いますので場所の移動をお願いします。
	（市長室へ移動）
事務局	これより、委嘱状の交付を行います。
	《委嘱状交付》
事務局	ありがとうございました。 以上をもちまして、委嘱状の交付を終わらせていただきます。

4. 市長あいさつ（市長室）

市長	《市長挨拶》
事務局	それでは、会議室に移動して委員会を進めさせていただきたいと思いません。

5. 稲敷市外部評価委員会委員長、副委員長の選出

事務局	委員長の選出につきまして、どなたかご意見があればお願いします。
小嶋委員	委員長には、常磐大学総合政策学部において政治学についてご研究をされている砂金教授が適任であると考え、砂金委員を推薦いたします。
事務局	ただいま砂金委員との発言がありましたが、ほかにご異存がなければご承認していただきたいと思いません。（一同承認） それでは、要綱に基づきまして、委員長に副委員長を指名していただきたいと思いません。
砂金委員	是非、ご経験の豊富な小嶋委員にお願いできればと思いません。
事務局	よろしいでしょうか。（一同承認）
事務局	ありがとうございます。それではよろしくをお願いします。

6. 委員長あいさつ

事務局	それでは会議次第「6. 委員長あいさつ」を委員長、よろしくをお願いします。
委員長	ただいま委員長に就任いたしました、砂金でございます。よろしく申し上げます。大学では政治学を教えており、これまでは小美玉市と笠間市の行政改革に携わらせていただいております。その場でもいつもお話しさせていただいているのですが、行政の仕事は儲からないのが当たり前と思っ

	<p>ています。つまり儲かる仕事であれば民間企業ができますが、社会にとって不可欠な様々な仕事を、税金によって自治体や国が行うという性質がございしますので、どうしても自治体の仕事というのは儲からないという側面があります。一方で、先ほど市長のお話にもありました通り、人口が減り、財政も厳しくなり、という中で今まで通りの行政経営、政策の実施がなかなか難しくなっている状況にあります。ですので、なんとかして行政の仕事の取捨選択をしなければならないのですが、それもなかなか難しいのが現状だと思っております。しかし、先ほど市長のお言葉にもあった通りなるべく廃止、あるいは民間委託など様々な選択肢を検討していただきたいという心強いお言葉をいただきましたので、是非、その市長のお言葉を胸に皆様のご経験を生かしていただきながら、有意義な議論をしていきたいと思っておりますので、是非よろしく願いいたします</p>
--	--

7. 議事

事務局	<p>それではただいまより、会議次第「7. 議事」を始めさせていただきます。ここからの進行は資料1の「稲敷市外部評価委員会設置要綱」6条より「委員長は会議の議長となる」とありますので、委員長にお願いしたいと思っております。よろしくお願いいたします。</p>
委員長	<p>はい、それでは議事に入らせていただきます。</p>

(1) 外部評価委員会の進め方について

委員長	<p>事務局よりご説明をお願いします。</p>
事務局	<p>《資料説明》</p>
副委員長	<p>確認ですが、6回の会議の区分は理解したのですが、具体的に事業や施策を議論していくのは、このうち今回の第1回を除いた第2回～第6回の5回で行うということでしょうか。</p>
事務局	<p>ご質問のとおりです。第2回～第5回で、次年度以降外部評価を含めた行政評価をどうやっていくのかということのをこれからの4回で議論していただけたらと思っております。最後の第6回目はまとめとなる予定です。</p> <p>去年までの外部評価委員会のような担当課を呼んでヒアリングをしてというやり方ではなく、これまでの外部評価を含めた行政評価を見直すことになります。</p>
委員長	<p>それでは外部評価委員会の進め方については、フリーディスカッションという形式で意見交換をお願いします。</p>
委員長	<p>結局やってみないとわからない部分はありますよね。小嶋委員が仰ったとおり第2回～第5回が議論の中心になると思っておりますが、進捗によってはある程度前後することもあるでしょう。今日も今までのまとめに加えて近</p>

	隣都市における事務事業評価の事例報告もしていただきますし、小嶋委員からも新しく資料をいただいています。
副委員長	これまで県が実際に行っている政策評価をまとめた資料です。後ほど説明します。
委員長	先進事例のところでご説明をお願いします。評価の進め方についてはいかがですか。
副委員長	稲敷市の事業数は全体でどのくらいありますか？ 前回までの外部評価は事業全体から政策的でないものなどを除いて、政策的なものを中心に評価しているようです。今回の見直しでは削除する方向でなくプラス方式で考えているのかなど、教えていただきたいです。
事務局	総合計画は去年まで400くらいの事業がありましたが、事業数が多いことから、今回実施計画の事業数の見直しを行っております。今取りまとめているところなのですが、約300超の事業数になると思います。次の会議が10月でしたら、それまでには分野別の事業数など必要であれば具体的に示すことはできます。 なお、総合戦略は80くらいの事業、行革大綱は30~40事業ありますが、実施計画の事業にほぼ含まれており、実施計画に計上されていない事業については、今後、実施計画事業として計上していただく予定です。
委員長	ただ、今年度のこの会議は300事業をそのまま評価するのではなくて次年度以降への仕組みづくりということですよ。
事務局	はい、今までの評価のやり方を今回の6回の中で検証して、来年度本格的に評価を実施していくことになります。
委員	政策が終了となる場合には、政治的なリーダーシップが必要です。 民意を反映して政策提言されてきた議員の方が議会でどういう議論がされてきたのか、今後の政策の方向性等を聞き取る枠組みがあるといいのかなと思います。実現するのは難しいと思いますが、我々は外部委員ですので、できることをやっていければいいかなと。
委員長	議会にヒアリングするなどの機会は今のところ考えていないですか？
事務局	そうですね。今のところは考えておりません。
委員長	やはりある程度政治的な部分にも触れなければいけない場面も想定されるため、議会への説明責任についても、制度的な裏付けをどうするかについても念頭に進めていけばいいかなと思います。
副委員長	そのやり方が一般的かどうかはわかりませんが、同じようなことを県としてやる場合には、県は定期的に調査特別委員会を設置して目標を決定し、その後、翌年度以降の6月の定例会常任委員会で報告します。調査特別委員会で決めた大枠の目標を5年間で進捗状況を報告して、また5年後に新しい調査特別委員会を作って目標を決めるというやり方です。そうい

	う仕組みが議会の中にあると行政側も楽です。
委員長	議会の中にも行政改革を検討する仕組みがあるとやりやすいのですね。

(2) 昨年度までの事務事業評価の課題整理

委員長	事務局よりご説明をお願いします。
事務局	《資料説明》
副委員長	どちらかという今までの取り組みは行革的な要素が強く、木を見て森を見ずといいますか、一事業をピンポイントで評価していたのかなという印象を受けたのですが、これから新たな展開をしていくということであれば、森を見なければならぬのかなと。木だけ見ていると本当に必要な事業は出てこないし、その事業の良し悪ししか判断が付きません。森というのは何かというと、横断的、重点的なプロジェクトです。大きな観点のものを評価するとともにその森を構成している木を評価する、2段階で評価しないといけないと思いました。
委員長	ありがとうございます。要するに細部ではなくてトータルな視点で評価するという手もあるのではないかとのご意見ですね。
委員	<p>今までの外部評価というのは事業がうまくやれているかどうか、事業のマネジメントの部分の評価するものでしたが、これからはそうではなくて、事業をやるかやらないかというところでも検討できる仕組みが必要なのかなと思いました。</p> <p>先ほど首長の在り方、議会の在り方を話したのですが、それはやはり外部評価委員会ができることと、行政の方ができると、政治の方がしなくてはいけないことは異なると思いますが、まずは目標もしくは現状を共有してもらうことが必要だと思います。そして何ができるのか何ができないのかという枠組みを、今回のこの委員会では一定程度の方向性として示すことができればよいかなと思いました。</p>
委員長	<p>私から何点か質問よろしいでしょうか。</p> <p>まず昨年度までの稲敷市の外部評価のやり方について、かなり丁寧にやられているなという印象を受けました。私はいくつかの自治体の行政評価をさせていただいておりますけれど、やはり多いのは年度末に2時間くらいで報告を受け、それが次年度にどう生かされるのかが分からないというのが結構あります。それは他の自治体でも改善しつつあるところですが。稲敷市の場合は9回に渡り、ほぼひと月かけて外部評価を実施しているというのが一点、そして次年度にどう変わったのかも評価するという点はかなりしっかり外部評価をされてきたんだと感じました。</p> <p>改めて伺いますが、資料2の5ページで事務事業を部別に分けるとかなり教育委員会の事業が多くを占めています。しかし資料3-1で昨年度まで</p>

	<p>の外部評価を拝見すると教育委員会の事業はあまり見えてこない。おそらく資料 3-1 の 3 ページの対象事業の選定の過程でもれていると思うのです。つまり稲敷市としては全部で 414 事業あり、この中で事務事業の評価の対象となるのは 399 事業だが、その中から最終的にはかなり絞り込まれていってしまう。ここが少しよくわかりませんでした。事務事業評価対象にも関わらず、政策的な面で評価が難しい事業というのはどういうことですか？</p> <p>なぜこのような質問をするのかというと、評価しやすい事業としにくい事業というのは当然あるんですが、必要性からいうと評価しにくいほうが評価しなければいけない部分が多いと思うのでその過程がどう絞り込まれるのかなと思ひまして。</p>
事務局	<p>まず、399 事業から経常的・義務的事业は省いています。教育関係だと、経常的・義務的事业というのも結構ありまして、そういった事業が対象から外れているということが一つあります。また、教育は事業がかなり細かくなっており、指導室等は県の先生が働いておりますので人件費が実際にかかっていないということから、対象となる事業が減っていたということが現状です。</p>
委員長	<p>だとすると、最初の事務事業評価対象事業の 399 という母数が変わるんですね。法定受託事務とかが対象外なのは当たり前の話だと思うので、対象事業の選定の仕組みの部分は少し変えようがあるかなと思います。</p> <p>あとは教育委員会が人件費がかからないという話がありましたけど、事業という単位が必ずしも同じものとして考えられていない気がしました。同じ事業としてカウントされていても、実際はそうではないというものもあるということです。そのあたりの定義づけを検討した上で事務事業の対象を選ぶということをやる必要があると思ひました。</p> <p>特に 3 担当（企画担当／財政担当／行革担当）がそれぞれ各担当による内部評価を判定して、その上で内部評価が決定されるころは大変だと思います。3 担当の方は、どの資料を見て点数を付けるのでしょうか？</p>
事務局	<p>資料 2 の 8～9 ページです。特に 9 ページで確認するのですが、担当課が評価している内容や今後の取り組みをどう改善するのか記入したものを参考に評価します。今年度に関しては担当課に対してヒアリングをしていますので、そういったところも加味して 3 担当の考えとして評価をしています。</p> <p>また、8 ページの下には目標指標の達成度評価があり、各事業に対して指標をつけています。</p>
委員長	<p>今回は外部評価委員会ですが、仕組みづくりを考えるにあたって内部評価の仕組みの話まで言及してもよいものですか。</p>
事務局	<p>もちろんです。</p>

委員長	今3担当の方がやっているやり方も我々で議論させてもらって、場合によっては変えたり変えなかったりといことで良いでしょうか。
事務局	是非、お願いします。 ちょうど3年前から行政評価を始めまして、それまでこういった実施計画書もほとんど作っていないような状態でした。今は3担当となっておりますが、以前は財政課、企画課、総務課というように違う課での視点で評価していました。こういった内部評価の内容についても議論していただいて、いい方向で見直しができればと思います。
委員長	3年間やってこられて、良かった部分、やりにくかった部分も是非教えてくださいたいです。良い部分は残し、難しい部分は変えていきたいと思っています。ありがとうございます。
副委員長	今回は基本的に総合計画、行革大綱、まち・ひと・しごと総合戦略の3本セットだと思うのですが、一緒にスタートしてフォローしていかなければならないということが外部評価する上で重要なのかなと思うのです。そういうことであれば今までは総合計画だけでやっていましたが、切り口も見直しが必要だと思います。
事務局	そこについては、昨年度総合計画を作るときに総合計画・行革大綱・総合戦略の3つの計画の事業は、実施計画にすべて記載するようにしまして、実施計画の調査票と事務事業評価票のシステムで全部評価できるようになっています。既存の事務事業評価をどう見直すかということを考えていただければ、すなわち3つの計画は同時に進行管理している状況になります。
副委員長	確かに入っているけれど、どのように有機的に結合されているのかがちょっと分かりにくいと思いました。
委員長	根本的な話を伺うと、1つ1つの事業が総合計画に紐づいているのと同じように、行革大綱にもまち・ひと・しごとにも紐づいているということですか。
事務局	そうです。どうしても漏れてしまう事業についても、新たに実施計画調査票を作成し、実施計画という仕組みですべて進行管理・事務事業評価しています。
委員長	総合計画と行革大綱とまち・ひと・しごとのつながりはどういう形ですか。
事務局	総合計画が一番最上位の計画で、個別の計画として、行革大綱や総合戦略がありますが、今回総合計画と一体的に3つの計画を策定しました。
副委員長	フォロー組織としては、それぞれで外部の委員をいれて進行管理をしたりということはないのですか。
事務局	昨年度、同じようにやるのが大変だろうということで、今回組織が一緒になったことを契機に、総合計画は外部評価委員会、総合戦略はまち・ひ

	と・しごと有識者会議で、また、行革大綱は行革懇談会を持っていたところを、これを計画策定は総合計画審議会に、事業評価は外部評価委員会に一本化しました。
副委員長	我々外部委員の意見というのは、3計画に反映されるということですか。
事務局	はい。
委員長	評価するのは外部評価委員会が評価するというので、ほかの委員会はないのですか。
事務局	ありません。
委員	<p>私、以前日本都市センターで働いていたことがあるのですが、その時夕張が破綻した時期でした。そこで何が迫られたかという、やりたくてもやれないものの選択でした。例えば夕張の総合病院があり、色々な施設があって色々な患者さんが利用していたけれど、うちの規模では無理だということで切らざるを得なかったのです。</p> <p>これからほかの自治体の行政評価の取り組み実施状況もあると思いますけれど、同時にやむを得ずやめていった事例とかがどういうプロセスだったのかということも見ていけると、評価するだけでなく、それが結実するところまで見れるのかなと思います。</p>

(3) 近隣都市における行政評価の実施状況と先進事例

事務局	《資料説明》
委員長	<p>水戸市の補足をさせていただいてもよろしいでしょうか。資料4の12、13ページの水戸市の外部評価ですが、外部評価委員の内1名が本学の教授ですので、昨日詳細を聞いてまいりました。</p> <p>ポイントとして、評価手順に「対象事業の担当職員から、業務内容及び手順等について説明を行い」とありますが、実際にはかなり厳密に行っています。年に10事業程度なのですが、1人あたり2事業を割り当てられ、例えば、私立幼稚園の担当になれば外部評価委員が実際に私立幼稚園へヒアリング調査に、というように外部評価委員がヒアリングに行き、見聞きしたことを報告書にして報告するそうです。相当な手間をかけているという印象がありました。</p> <p>更に学識経験者5名というのも、大学の教員2名に税理士が2名、あとは団体の方だったそうです。中でも税理士が重要で、指定管理や税金の未収納等を強化する時に、税理士の専門知識が相当役に立ったと言っておりました。</p>
委員	委員長の仰る通り、外部評価委員を務めるのは非常に大変だったということと同時に、無駄をなくし、回収できなかった税金をどのように回収できるようにするか、マネジメントの部分で、より適正にするということ

	が主眼であったと私は理解しました。
副委員長	まさしく管財税務が関わる行政の全体的な行革の取組なのですね。
委員長	指定管理者制度の導入も、元々そうした路線があり、外部評価委員がその理由付けにされている部分はあると思います。
委員	<p>木を見て森を見ないということになってはいけないと思います。事務事業評価をするにあたって、一つ一つが必要か考えると同時に、施策としてどう事務事業評価と関わっていくのか見る視点を忘れてはいけないと思っています。</p> <p>具体的には、たとえば新潟のとある村に温水プールがあり、冬の間老人をプールへ連れていき、歩かせたり泳がせたり運動の場を設けていて、健康維持に役立っているものの、赤字経営になっている。ただし、お年寄りを健康にするという点は達成をしている。金銭面でのみ成功かどうかを判断してはいけないのも然りですので、多様な視点を社会的なニーズとしてどう反映させていくのか、行政ですので、儲かるかどうかだけではいけないそのバランスが難しいと思いました。</p>
委員長	私が疑問に思ったのは、白井市もそうですが、資料の最初の方で政策レベルの評価をしている所が20%近くあるのが驚きで、政策レベルというのは総合計画で決める話なので総合計画で決定したことを外部評価委員で評価出来るのかということを感じました。
事務局	<p>昨年度まで3年間担当をしていて、他市町村の事例でどうしているのが疑問に思っていました。</p> <p>稲敷市の場合は、政策レベルや施策レベルで指標は作っていません。今回は、重点事業に目標は立てていますが、政策レベルは大きくなるので、どういう形で評価するかは他の課も関わってくると思います。政策・施策については、どのように評価するのか、内部で少し勉強する必要があると考えています。</p>
委員長	<p>一般論として、政策レベルがマクロにあって、施策レベル、事業レベルと続くピラミッド構造になっているじゃないですか。基本的に目的・手段の関係になっていると言われるわけです。つまり、大きな目標として政策目標があり、実現するための手段としていくつか施策がぶらさがっており、それを実現するための手段として事業がぶらさがっているわけです。</p> <p>目標に対する手段を改善・解決するのは理解できますが、目標が良くないから目標を変えるというのは、外部評価委員で行っていいものなのでしょうか。政治判断に近くなりますよね。総合計画は基本的には市長に答申を出し、市長が議会に謀って決定するものですから、首長や議会の仕事になります。外部評価委員もしくは職員の皆さんが関わる仕組みについてはよく分からないので白井市などに一度聞いて見たいですね。</p>

<p>コンサルタント</p>	<p>施策評価や政策評価の実施は、基本的に事業レベルの評価を積み上げていることが多いです。たとえば施策にぶらさがっている事業がどれだけ実施されているか、効果を達成できているかというのはそれぞれの事業の指標の積み上げで測ることができます。事業がある程度実施されているし、事業がある程度の達成度にある場合、施策も十分に達成されており、取り組まれているという評価をしています。施策も政策も事務事業評価レベルの評価の積み上げで評価しているというところはあります。</p>
<p>委員長</p>	<p>実際の評価項目は事業で、総合得点として施策評価があるイメージですか。</p>
<p>コンサルタント</p>	<p>はい。事業に携わっている方は、森の視点でどれだけ施策が達成されているか、施策が実現されているかについては、意識されないことが多いので、取りまとめた評価という形で出すことで達成度の把握をします。進捗管理に近いかもしれません。</p>
<p>副委員長</p>	<p>まさしくその通りだと思います。政策、プロジェクト、重点目標というものはいわゆる、こうなるといいという共通目標ではないかなと思います。いいものを目指しているのですから、まずそこを否定する人はいないと思います。</p> <p>理想の世界の目標をどこまで達成しているかを各種個別の事業で見えていき、最終的にどこまで進んでいるのかという評価になると思います。たとえば、稲敷市も三つの基本方針の他に7つの重点プロジェクトがあり、地域活性化やいなしきっ子や子育て応援を悪いと言う人はいませんから、今度はこれを個別の事業でフォローしていくわけですね。</p> <p>二段階で評価していくが、あくまでプロジェクトについては達成状況、進捗状況の評価になるのだと思います。もちろん、個別の事業は過不足があるでしょうから良い・悪い、要・不要の議論が必要だと思います。過不足がわかりますので、森を見るというのが大事です。</p>
<p>委員長</p>	<p>やり方として、今は色々偏らないように政策分野を28でやっていらっしゃいますけども、今年は1つの施策分野に特化して、トータルなバランスで判断して、政策自体は進捗状況を確認する形式があってもいいのかもしれないと、今お話を伺っていて思いました。</p>
<p>事務局</p>	<p>3年前にも第2次総合計画ができましたので、重点事業の分野をまず外部評価にかけました。そうすると、重点事業ですので偏りが一年目はありました。そこで二年目は、外部評価のPDCAというのを色々な課に理解してもらわなくてはいけないということで20数課に3～4事業ずつと広げてかけてもらい、3年目はどこの分野も見れるような形で、と外部評価委員会の中で話し合っただけで決めた現状でした。</p>
<p>委員長</p>	<p>難しいですね。哲学が2つあって、一つは「木を見て森を見ないようではいけない」ということがあり、もう一つは「偏ってはいけない」があり</p>

	<p>ます。2つの哲学を頭にいれながら外部評価をしなくてはならないと皆さんのお話を伺っていて思ったのですが、その辺りを上手いこと仕組みとして、少なくとも理念としては落とし込むことが必要かもしれません。</p>
副委員長	<p>追加資料：《茨城県事例説明》</p>
委員長	<p>いくつもお示唆に富む内容がありました。一つご発言の中で大変興味深かったのは庁議決定を覆すことになりかねないということです。この委員会のお話を聞いた時にも、難しいなと思ったのですが、結局外部の人間です。正当性を持てるわけではない委員が、市民から信任された市長なり議会が決定した内容を覆す力がどこまであるべきか。だからこそ出来る部分があるとはいえ、一方で難しいですね。</p> <p>行財政改革調査特別委員会がポイントだと思いました。きっかけがこの委員でしたので、やりやすいシステムができていたと思いました。</p> <p>今我々が集まっているのは必ずしも議会から始まっているお話ではありませんので、途中から議会を絡ませるとするのは非常にややこしいと思います。どうしていけばいいか少し考えながらお話を伺っておりました。</p> <p>佐々木先生いかがですか。</p>
委員	<p>評価と同時に優先順位も重要視してほしい。何ができて何ができないのか。余裕がない時の事務事業の優先順位付けが必要だと思います。</p>
委員長	<p>優先順位と言った場合、いくつも事業があった場合どれを先に手を付けるかというお話だと思うんですけども、一方で評価は逆の優先順位のつけられ方がされがちな気がします。評価されやすい所から評価をして、評価をし辛い、もしくは手を付けるとややこしくなるものが後回しにされてしまう。</p> <p>優先順位を議論する際、その辺りは区別して議論したほうが良いような気がします。</p>
副委員長	<p>優先順位を各自治体で取り組んだ事例が少ないということは、実施が相当難しいということです。政策的な観点からか、または、住民に求められているニーズから順位をつけるのか、色々なパターンもあります。その中でもどうつけてよいのかわからないこともあります。</p>
事務局	<p>優先順位については、3年前から始まった内部評価の中で各課にお願いしたことがありました。優先順位が低いものを予算付けしないだとか、休止・廃止することではなく、何が課によって重要な事業として位置付けられているのか把握したかったので行いましたが、結果的にほとんど9割方順位をつけていただけないのが現状で、担当課としては全て重要と感じている、という結果が出たことがあったことをお伝えしておきます。</p>
委員長	<p>総合計画をつくる時の重点政策を絞り込むときの議論で、どこの部からもこれを入れてくれと要望が入って結局総花的になってしまった経験があります。中々自分たちの仕事に、これは重要ではないと結論するのは難し</p>

	い部分がありますよね。
事務局	もしかしたら、重点事業として今やっている事業の上乗せ部分に対しての優先順位なら担当課も可能性はあるのかもしれませんが、普段の事業だと難しい気がします。
副委員長	優先順位を付ける事は可能だと思いますが、全員の総意を得る事が難しいでしょう。トータルとして皆の意見をまとめるのが難しいと思います。
委員長	お話できる範囲で伺いたいのですが、この事業は休止・廃止をしたいという事業は担当課の中ではありますか。
委員	事務局の方は言いづらいことがあるかもしれません。資料にも記載があったように、時代にそぐわないなというものがあると思いますが、動いている物を止めることを内部から発信するのは非常に難しいと思います。ただ、内部の方もそうしたものは持っていると思います。
委員長	<p>内部の経験値が吸い上げられて評価に反映できる仕組みのほうが、実際的だと思います。単に客観的に必要・不必要とするものも当然大事ですし、内部評価をくみ上げて活かすことも必要です。先ほどの水戸市の指定管理などはむしろ内部でもう切り上げたいというものを、外部評価委員で吸い上げて、それを外部評価委員会の意見として出すことによって正当性を得て、指定管理に繋がったということがあるはずです。</p> <p>出来ればですが、今挙げていただいたいくつかの先進事例の評価シートというのは手に入りませんか。特にポイントだと思っているのは、廃止のものです。廃止する決断というのは相当重いはずなのですが、形式的にはここに廃止のためのロジックが入っているから決断できるわけです。廃止の仕組みをつくる為には、そもそも廃止の仕組みを持っているところがどういうシートで評価しているのかは、少し見てみたい気がします。公開ベースで構わないと思うので、公開されているものでもしあればお見せいただければと思います。</p>
副委員長	事業完了もありますよね。やり残しているけれど効果がないからやめるもの、ではなくすべてやりつくしたというものもあると思います。
委員	放置もありますね。政策は終了していないがお金も人員もついていない、部屋もない。事務事業は動いていることになっていますけども、実質的な廃止というものもあります。
委員長	政策放置というのは考え方として興味深いですね。
事務局	重点事業でも立ち行かなくなってしまうものもなくなってそのまま流れているようなものもあります。
委員	逆にそれは無害と言えるかもしれません。人もお金もついていないので。
委員	評価と言うものを具現化させていくときに関係者全体の意識の変化が必

	<p>要だと思えます。庁内の研修会や議会事務局に呼び掛けての議員の研修会などの場で、財政状況がどういようにあるのか、もしくは職員状況がどのようにあるのか、もしくは仕事の負荷がどのくらいあるのか、それをどういよう風に変えなくてははいけないか、外部の有識者を呼ぶなどして、意識付けが必要かなと思えます。</p> <p>それがない場合、結局対立構造が生まれてしまうので、関係者の方は関与されていることに誇りをもっていらっしやいますし、色々な利害もあると思えますので、意識付けにまでつなげることが必要かなと思えます。</p>
副委員長	<p>今年度は手法を検討するにあたって、具体的に効果があるかどうかみるのに特定の事業を題材に出して検討してはどうですか。</p>
事務局	<p>シミュレーション的に、来年度以降のためにやっていただくのは良いと思えます。</p>
委員長	<p>今日の資料の全体スケジュールに、この委員会の第6回までの導入、展開、まとめがあると思えますが、4回目辺りにシミュレーション、実証実験を行うということが書いてあります。今日でたたき台のたたき台の話が出来て、第2、3回で具体化して、出来れば仮の評価の仕組みを作成して、4回目にシミュレーションをして、5回目以降で検証していく流れに乗ると良いですね。</p> <p>ちなみに4回目のシミュレーションの事業は、既に絞り込まれていますか。</p>
事務局	<p>まだ出来てはいません。いくつか出せそうなのはありますし、来年度から行う新規事業で企業版ふるさと納税があるのですが、そちらも担当課に了承を得ているので可能です。</p>
委員	<p>自分の研究で、市役所職員のリーダーシップについて研究をしようと思っています。首長だけでなく、部長や課長、係長といった各段階のリーダーについてですが、先ほどの問題と同様、おそらく直接聞くと誰も答えてくれないと思えますので、匿名で回答できるフォーマットを予定しています。</p> <p>ですので、第3者のところに郵送するなど、何が問題かを匿名で回答できるのは1つの手法だと思えます。組織の中で具体的な名前を出して回答するのは難しいと思えますので、あまり負荷をかけない形で問題を表面化させていく手法を編み出さなければ、何が問題か把握できないままやっても、それこそ評価のための評価になってしまう。</p>
委員長	<p>先ほど事務局からも評価疲れという単語が出て、やはり行政評価の1つの問題点で、本当は効率を改善するために評価をすべきなのに、評価自体が負荷になってしまっ、かえって効率が悪くなってしまうということは当然あるわけなので、我々としても頭に入れて議論をしていかないと意味がないものが出来上がってしまいかねません。</p>

副委員長	評価の際ですが、私は視点が市内だけにとどまっているのではないかと思います。全国、茨城の中の稲敷市の位置は、いばらき早わかりなどを見ると色々な分野での問題点が大体分かります。一目瞭然です。
委員長	今日の議論の一つが木を見て森を見ずになるな、ですから今のご指摘そうかもしれませんね。それこそ、早わかりを手元において、それを踏まえながら評価の話をするというのは大事かもしれません。
副委員長	逆に言えばそれが優先順位にも繋がると思います。遅れている項目については緊急性が高いことから、平均までいかななくても、もう何か順位を上げなくてはいけないんじゃないかという話ができると思います。
委員長	そういう発想はあまりなかったかもしれません。先進事例の中でも、そういった発想から評価するというのは面白いかもしれません。
コンサルタント	ベンチマーク方式でやっているところは全国的な数値に比べて測っていると思うので事例があるか調べてみます。
委員長	那珂市の総合計画の委員長をしているんですが、周辺自治体、同人口規模の自治体と那珂市を比較して、火災件数や交通事故数、不登校の割合だとか横目に見られる形に確かになっています。必要かもしれないです。
副委員長	それで委員が仰った優先順位について少しはフォローできるかもしれません。すべてそれを入れるのは難しいと思いますが。
委員長	この委員会は、こんな感じで進行表に沿って進むというより、ざっくばらんに意見を交わして色々なアイデアが相乗効果で新しい考えを生むような委員会にしたいと考えておりますので、是非次回以降もこのように議論できればと思います。
副委員長	その際、重要なのは茨城県は福祉部門・医療部門が全国で最下位クラスですから、全国の順位も見なくてはいけないと思います。

(4) その他

委員長	次に「その他」について、事務局の方でなにかありますか。
事務局	次回の日程について決定していただきたいと考えております。
事務局	スケジュールについては、以下のように決定しました。 第2回 10月23日(金) 午後14時00分～ 会場：331会議室

8. 閉会

事務局	第1回稲敷市外部評価委員会を閉会とさせていただきます。本日はどうもご協力ありがとうございました。
-----	--

以上